修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　鴻田好通
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
1－17－1NK第1ビル
☎03（5259）0631

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

国内修学旅行（公立高校）における航空機利用許可地区は 98・3% となった。

㈶全国修学旅行研究協会の調査によると、平成11年度において公立高校国内修学旅行での航空機利用許可地区は、全国で一都一道二府四三県・一一政令指定都市となり、これは全国の九八・三%に達し、未許可地区は僅か一政令指定都市となった。

平成10年度実施分の国内修学旅行の内、航空機利用状況を利用校数で見てみると、全国で校数は二一八〇校、利用率は五七・九%であった。

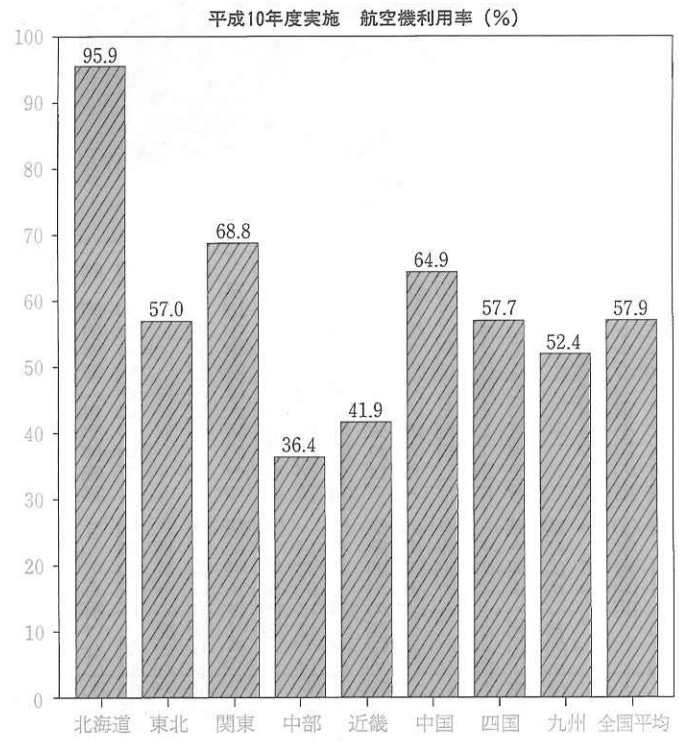
公立高校における航空機利用は、今や常識であり、海外修学旅行を含めると、公立高校修学旅行の基幹輸送は、全体の三分の二が航空機利用となって。

更に、同年度の海外修学旅行実施校数は三〇八校、実施率は七・七%となっており、現在増加傾向にある国内修学旅行における航空機利用も、将来的には海外修学旅行へと展開していく。

現在の航空機利用状況を地方別に見てみると、北海道が九五・九%と圧倒的に高く、次いで関東・中国が六〇%を越えている。

一方、比較的低いのが、近畿・中部地区で五〇%未満となっている。これらの地方は、地上交通機関（JR、バス）が発達しており、永らくスキー修学旅行が多く実施されていた地方でもあった。

これらの地方も平成十一年度以降は急速に航空機利用が拡大すると思われる。

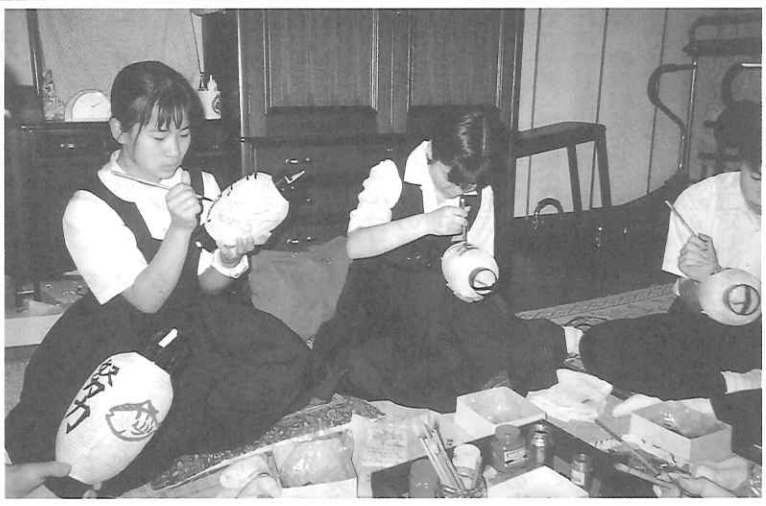


平成10年度実施
公立高校における修学旅行で　国内航空機利用状況（実施校数）

（単位：校、%）

地方	総学校数	海外修学旅行		国内修学旅行		
					航空機利用校数	
		実施校数	実施率	実施校数	利用校数	利用率
北海道	275	9	3.3	266	255	95.9
東北	446	31	7.0	421	240	57.0
関東	1,094	8	0.7	1,088	749	68.8
中部	628	31	4.9	610	222	36.4
近畿	530	31	5.8	516	216	41.9
中国	309	39	12.6	279	181	64.9
四国	178	17	9.6	175	101	57.7
九州	531	142	26.7	412	216	52.4
計	3,991	308	7.7	3,767	2,180	57.4

※（1）長野・静岡は中部地方として集計
（2）海外修学旅行実施校の内、84校は国内も同時に実施している。


「体験学習で思いでづくり」（千葉県柏市立西原中学校）

═主張═ 国際理解教育の充実と海外修学旅行の発展

近年、国際化の進展はめざましく、今後ますます加速していくものと思われる。このような状況のもと、国際理解教育は次のようなことが基本と言われている。

a　異文化の理解とそれを尊重する態度、異文化を持つ人々と共に生きて行く資質や能力の育成

b　日本人として、また、個人としての自己の確立

c　国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現出来るコミュニケーション能力育成

一般的に国際理解教育は、国内における展開と外国における展開とがある。

現在、日本には八〇人に一人の割合で外国人が在住していると言われ、数の上だけから言えば、外国人と接触する機会は比較的存在するとも言える。しかし、今日、国際理解を体験的にと言えば、海外という見方が大勢となっている。

国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、いずれにせよ、国際化の進展は、人と人との相互理解・相互交流が基本となる。その意味で、教育の果たす役割はますます重要なものとなっている。外国での展開の場を見ると、例えば中・高校生の海外体験として、短期留学（サマースクール、サマーキャンプ、語学研修、ホームステイ・ファームステイ）、長期留学、専門留学（スポーツ留学、芸術留学）と海外修学旅行がある。

このうち海外修学旅行以外は、個人的な目的や体験としての場合が主である。修学旅行は学校教育の一環であり、教育の多様化と国際化の進展の中で、狙い・目的地を海外に拡大したものと言える。

その海外修学旅行の狙いの一位は「国際理解・国際親善に資する」、二位は「訪問国の歴史・文化・産業・生活等について学ぶ」、三位は「外国を学ぶことにより日本をよりよく知る」、四位は「旅行先の高校生との交歓により理解と親善を深める」（全修協海外修学旅行実態調査・平成七年度調査）となっており、国際理解を体験的に学習する機会としての海外修学旅行の重要性はますます高くなっている。

しかし、現実の海外修学旅行はそれに応えているかどうか、前記調査によれば、実施後の意見・課題として

・修学旅行は観光旅行ではないので、二十一世紀を見つめた研修旅行でありたい。

・海外修学旅行によって生徒の国際感覚がよりよいものになるための具体的な取組みが必要（学校交流を事後も組織的に継続など）

・帰国後の生徒の語学教育、文化、歴史等に関する興味・関心が高まり、期待以上の成果が得られている。事前学習を充実させることによって更に有意義な研修が期待出来る。

などがあり、海外修学旅行と国際理解教育への課題と期待が伺える。しかし、前記調査では、旅行期間中に旅行先国の学校と交流会を実施した学校は九〇・四%で、更に、帰国後の交流状況は、学校として行なっているのは二〇%、殆ど行なわれていないのは二一・五%であり、今後の課題として大きい。

これらを含めて、これからの海外修学旅行は、目的・狙いを単なる国際理解教育体験にとどめず、それ以外にも拡大する必要がある。例えば「環境」の視点から、修学旅行先国を選ぶなど、先ず、目的・狙いを明確にし、国際理解とともに、それが具体化出来る旅行先国を選ぶということが重要となろう。海外修学旅行は今後ますます拡大していく傾向にあるが「海外」であればこそ地球的規模での目的・狙いを考えたい。

（前）

風紋

全国連合退職校長会（全連退・土橋荘司会長）では、六月に開催した全国総会において「教育の日」の制定を提言し、「教育の日」制定推進委員会」を設置して運動を展開することを決定した▼未だかつてない危機に直面している教育の現状を改善するには、教育のいっそうの振興充実のための諸条件の整備・充実・改善と、教育に携わる人々がその使命・役割についての自覚を深め、志気を高め、国民からの厚い信頼と深い尊敬を得て、意欲をもって教育に当たることのできる環境づくりが肝要であり、広く国民の間に教育尊重の気運を高め、国民こぞって教育の振興を期するための「教育の日」の制定を提唱するというのが趣意書の主文である▼我が国近代学校制度の基本構造を定めたいわゆる学制発布は、明治五年（一八七二）八月二日のことであった。この日こそまさに「教育の日」にふさわしい記念日とできるのではあるまいか▼所期の成果を得るには具体的行動が必要である。全連退の地域組織が中心になって、都道府県の小・中・高校長会の協力による全国的署名運動を展開して国民的賛意を集約し、文部省の仲介による国会文教委員会への陳情請願を行い、議員立法による法案策定の実現を期していくことを提案する▼「国家百年の計は教育に在り」という。教育の正常化といっそうの充実について国民の関心を高めることが文化国家日本建設の大本である。

（前）

教育の窓

ガイダンスの出現

東京農業大学教授
前文部省初等・中等教育局主任視学官
渡部邦雄

一　ガイダンスの概念

新学習指導要領（中・高）に今回はじめて、「ガイダンスの機能の充実を図る」ことが示された。中学校の場合、総則の第６「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」と特別活動の第３「指導計画の作成と内容の取扱い」に関する配慮事項としてである。

ガイダンスの概念は、これまでも生徒指導、進路指導、教育相談などの各専門分野で、それぞれに規定され使用されてきているが、ここでは次のように限定して使われている。

すなわち、総則では「生徒が学校や学級での生活によりよく適応する」とともに「現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成する」ことができるように、その機能を充実するとしている。

また特別活動では「学校生活への適応や人間関係の形成、選択教科や進路の選択などの指導」に当たって、ガイダンスの機能を充実するよう「学級活動の指導を工夫する」と具体化して述べている。

二　なぜガイダンスなのか

ガイダンスをこのようにとらえた上で、では、なぜ今「ガイダンス」なのか。今日の生徒の実態から考えてみよう。

不登校の生徒、人間関係を上手く築くことができず、孤独、いじめ、情緒不安などで悩んでいる生徒、学習意欲に欠ける生徒などがいる。また、自己理解、自己受容が不十分なまま、目的意識を持てず、学習や進路の選択に当たって適切な対応ができないで、悩み、苦しみ、自己を見失って問題行動に走る生徒も見られる。

自ら考え、判断し、行動し、責任をとることが苦手な指示待ち人間も多い。

「生きる力」の育成に向けて、このように、生徒を取り巻く諸課題を解決することが急がれているのだ。

生徒一人一人が自己を見失わずに、「生きる力」を備えて豊かな自己実現を図っていけるようにするために、ガイダンスの機能の充実が新たに示されたのである。

もちろん、これまでも各学校では、入学時のオリエンテーションや学級での学期当初の指導等で類似した指導を行ってきた経緯がある。それらの経験を生かし、計画的・組織的な取り組みとしてのガイダンスの機能の充実を図る必要性がでてきたのである。

三　主なねらい・内容

ここでは、すべての生徒が学習活動など学校や学級での生活によりよく適応したり、好ましい人間関係を形成したり、学習や進路等の選択、自己の生き方などについて、主体的な選択やよりよい自己決定ができるようにしたりすることをねらいとしている。

そのために、適切な情報提供、案内・説明、活動体験、各種の援助・相談活動などを行うことが大切となる。

単なる事前説明や資料の配布だけで終わらないように留意したいものである。

具体的な教育活動としては、例えば、○入学時や新学期開始時期などに教師と生徒、生徒相互間の好ましい人間関係を醸成するような配慮、生徒自身が学級における係、班などの諸活動の意義や集団の一員としての在り方などについて、実践を通して理解し、自主的、自発的に取り組むことができるようにすること、○選択教科等の選択に当たっては、学習活動のねらい、内容、方法等の理解を深めさせ、主体的な学習意欲を喚起し、自己の特性等に応じた多様な取り組みができるようにすること、○進路の選択では、自己理解を深め、将来の生き方を考え、主体的に進路選択し、豊かな自己実現を図ろうとする意欲、態度を育てること、などについての配慮を忘れないようにすることが大切である。

スキーを通じて自然を身近に感じると共に自然の中で体験学習を深める

修学旅行における環境学習研究・実践レポート　Ⅷ

奈良県奈良市立富雄中学校

志賀高原スキー修学旅行を実施した。

一、修学旅行概要

奈良市立富雄中学校（篠原弘州校長）２年生３２２人の修学旅行は平成10年２月21日（日）から２月24日（水）の３泊４日で長野県志賀高原スキー修学旅行を実施した。

二、修学旅行の特色

関心・意欲を持って、自らスキーを学ぶ力を身につける。

又、成就感や到達感を育み自信をつける。

単なる、スキー技術習得のスキー修学旅行ではなく、スキーを通じて自然を身近に感じると共に、自然の中で体験学習を深める。

三、主な研究実践の内容

・学級活動や学年集会を通じて、一人一人がより高い目標を目指し、希望と勇気を持って何事に対しても着実にやり通す強い意志が育つように、あらかじめ計画的且つ発展的に指導に努めた。

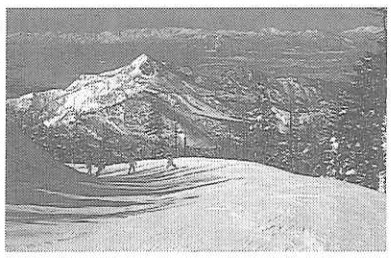
・初めてスキーをする生徒は、十分な時間を掛けて雪や用具に慣れる必要があるので、平地での歩行や方向転換などの練習を事前に保健体育科の授業を通じて学んだ。

・気象の変化による事故も多いので、安全に対する配慮もすると共に、十分な準備運動を義務付けた。

・それぞれの個性や立場を尊重し、スキー学習を通じて他から謙虚に学ぶ広い心を持つように指導した。

・感受性豊かな中学生にとって雪山の大自然は、美しくもあり神秘的でも古。その自然の中で情操・感動を深めそれを人間としての豊かな心の成長へ繋ぐことが出来るように指導した。

・今回の自然体感学習が、人間と自然との関わりについての学習を深めていくことにおいて、大変意義深いものであるという位置付けをして、今後の学校生活の指導に当たる。



四、環境学習（自然体感学習）の取り組みについて

(1)　環境学習の狙い

富雄中学校は大阪のベッドタウンとしての都市化の進展に伴って自然破壊が及ぼす人間との関係に目を向けていくことが出来れば、地球規模で自然の偉大さ・大切さに気づくと判断し、その初歩の段階として雪に触れていくことに意義を考える。

関西地区では雪も少なく、２メートル近い雪を目の当たりにすることにより自然に対する学習意欲を高めていくことが出来れば、自然に対する再認識ができると判断する。

(2)　事前指導

関西と志賀高原との気温の差を説明し、なぜ春先になっても解けないのか等を地理的条件・気候的条件・志賀高原の歴史などを修学旅行委員会便りを通じて学級に考えさせた。

(3)　学習内容

日常的には、ほとんど触れることの出来ない雪原で、気象要素の測定や物理現象の実証実験を通じて、自然を体感する。

そのことから得られる知識や興味・関心、経験を生徒に広め、普段の学習に生かしていく。

①学習時間

第２日目　20：00～21：00

②学習内容

１　雪の観察

積雪の違いの観察

水平面、斜面、樹木のまわりの違い

縦断面の観察

（各層の雪をルーペ観察）

積雪のようす、降雪の経過の発見、層序、結晶の観察

双眼実態顕微鏡による観察

２　各要素の測定

基本要素の測定

気温（地上、雪上、雪中など）、積雪量

物の凝固点の測定、

純水、水道水、清涼飲料水など

物理現象の実証

斜面の落下運動と摩擦、位置エネルギーと衝突

五、研究実践の成果

・一般的なスキー修学旅行ではあったが、修学旅行委員会を中心に目的やスローガンや生活面での約束事の決定などを行い学年全体に働きかけることが出来た。

・スキー学習は３１９名全員参加し２時間４単位の講習を終え、ボーゲンでゲレンデを滑走することが出来た。

・毎日、部屋長会議を通じて、一日の反省や明日の目標を確認し、生徒全員に自覚を促すことが出来た。

六、今後の課題

・スキー修学旅行という企画の中で、自然に触れ、雪や環境についてもっと学びたいという生徒の意欲に十分答えるだけの時かんや、教材・教具の準備が難しかった。

・自然体感学習の時間は、夕食後の自由時間にしか設定することが出来ず、生徒の健康管理の面から見ても、今後の課題となった。

〈日　程〉

第１日目２／21（日）

学校 7:30 ═══（東名阪自動車道・名神高速・中央自動車道）═══（長野東IC・湯田中）═══ 志賀高原・一の瀬 17:45

第２日目２／22（月）

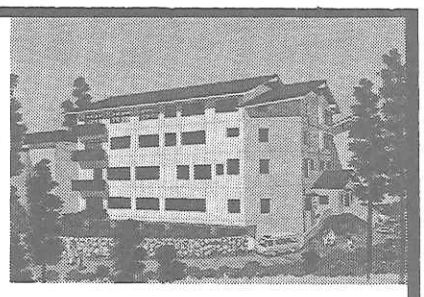
スキー学校スキー講習　9：00～11：00　13：00～15：00

第３日目２／23（火）～第４日目２／24（水）

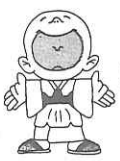
スキー学校スキー講習　9：00～11：00　13：00～15：00

志賀高原・一の瀬 20:00 ═══（夜行バス）═══ 学校 7:00

座禅体験で
〝心、リフレッシュ!!〟
清潔、安全、快適、
安心のお宿

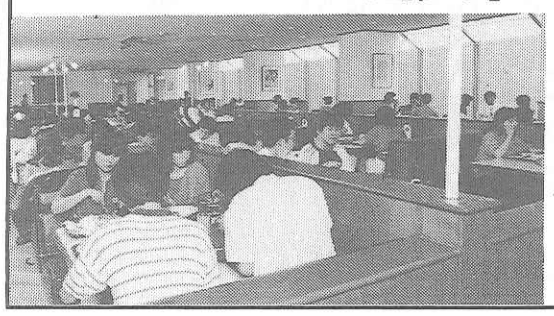


本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人



〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775－78－0047・0554
TELEX　5464－917
FAX　0775－79－5053

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根彫刻の森美術館内
レストランコンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。
〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）

古代文化邪馬合国ルート
壱岐へ…

魏志倭人伝に一支国の名で記されている。
古代大陸交流の要としてクニを構えていた壱岐。
イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお薦めします。
壱岐教育旅行受入協議会事務局
九州郵船
TEL（092）281-0831
FAX（092）281-0444
URL http://www.mapion.co.jp